

海外保育留学における事前授業に関する考察

加藤 あや美 内田 政一 小野 克志

On the Course Design for Students to Prepare “Overseas License Program for Childcare”

Ayami KATO, Masaichi UCHIDA and Katsushi ONO

1. はじめに

文部科学省（2008）は、「日本人学生の海外留学の意義」としてグローバル人材育成の重要性を強調しているが、日本人留学生は2004年の82,945名をピークに減少し続けている。上記に関して文部科学省（2008）は「若者の留学離れは、国際感覚や研究能力を磨き、人的ネットワークを形成するなどによる、国際的に通用する人材の育成の機会を狭めるものであり、グローバル化が進む中で、我が国が取り残されることになりかねない。他方、今後我が国に30万人の留学生を受け入れようとする中で、受入れ機関や地域の中核となる人が海外留学経験を有することは大きな意味があり、そうしたことから、日本人の海外への留学の促進が必要である」と述べている⁽¹⁾。このような現状から、文部科学省を中心として、官民協働で海外留学者数の増加を目指し、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者に海外留学の機会を与え、海外留学を目指す学生の経済的負担を軽減するための奨学金給付など様々な仕組みを整備し、海外留学への機運を醸成する「トビタテ！留学 JAPAN」等の取組みの充実を図っている⁽²⁾。これらの点から、日本では様々な分野において、グローバル化に対応するため国際的な視野や多様な文化を受容できる能力を持つ人材が必要とされていることがわかる。

本学は、上記の観点から2018年に保育学部「国際教養こども学科」を設置し、保育・幼児教育の分野における新たな人材育成に取り組んでいる。本学科では3年次に約11カ月間のオーストラリア留学（海外保育ライセンスプログラム）を組み入れたカリキュラムを整え、語学留学に加え、海外保育留学として保育・幼児教育分野への留学を経験し学ぶことで、グローバル化に対応できる人材の育成を目指している。

本稿は、オーストラリアでの約11カ月の留学の準備科目として位置づける「Study Abroad Preparation」という科目に焦点を置き、学生の期待・不安要素から科目の内容を検討することを目的とする。学生へのアンケート調査の結果をもとに、留学に対する期待と不安を具体的に示し、学生のニーズに合ったより効果的な科目のシラバスを提案していくことにする。

2. 研究の背景

2.1. 先行研究

英語力を生かした国際保育者養成のニーズに関しては、鈴木（2015）が、「すでに短期大学でも名古屋短期大学（桜花学園大学の併設校）のように積極的に海外研修や海外留学を行い、海外の保育士資格の取得を目指し、英語保育の現場に人材を送り出しており、首都圏や関西圏の保育系短期大学でも新たに英語保育コースを設置する計画がある」と指摘している⁽³⁾。また、学位やディプロマの取得を目的とした正規留学以外にも、大学等の正規プログラムに組み入れられた語学研修や様々な技能の取得を主目的とした短期、長期留学プログラムは多様化しているが、その参加学生への影響に関しては系統だった研究、調査が少ないのが現状である。学生にとっての長期海外留学への阻害要因は、語学力不足や異なった環境での生活、経済的な負担などに対する不安だけでなく、奥山（2017）によると、学生間の強い横並び意識や同調意識の存在があり、そこを離れることへの強い不安感も大きく関係していることが示されている⁽⁴⁾。また、黒宮他（2016）が、留学事前学習が、学生たちの「留学への不安」および「留学への期待」にどのように影響を与えるのか調査、分析を行っている。本稿はこの黒宮他（2016）の研究結果を基盤とし、調査を行うものである⁽⁵⁾。

2.2. 国際教養こども学科における海外保育ライセンスプログラム

本学科はグローバルな視野を持った保育者の養成をするべく短期と長期の海外留学を必修とするカリキュラムを持っている。学生はまず1年次に約2週間のニュージーランドにおける「海外保育フィールド・スタディ」に参加することとなっている。このプログラムには、現地の保育施設において研修を行ったり、様々な形態の保育施設を見学する機会が含まれており、短期の必修留学として位置づけている。また、「海外保育ライセンスプログラム」としてオーストラリアの職業高等教育機関（VET）である保育士養成専門学校および語学学校に約11カ月間留学し、オーストラリアのアシスタント保育士資格を取得する。留学当初3カ月の語学学校にて一定の英語目標レベルを修了したうえで、保育士養成コースに在籍する。このプログラムを長期の必修留学と位置づけている。保育士養成コースにおいては、コースで開講されている18科目すべてのレポート試験に合格するとともに、約40日間の保育実習を行い、オーストラリアのアシスタント保育士資格（Certificate III in Early Childhood Education and Care）を取得するため学んでいく。オーストラリアのアシスタント保育士資格取得のみであれば、約30日間の保育実習で取得可能であるが、より高い保育者スキルを身につけるべく、本プログラムでは約40日間の保育実習をカリキュラムに組み込んでいる。

前述の通り、本留学プログラムは語学コースと保育コースでの学びにより構成されている。語学コースでは、語学力を強化するだけでなく学生の問題や関心に即して主体的に学修できる環境をつくり、その後の専門性を深める教育課程の準備段階としている。また、保育コースでは、国の領域を越えて子どもと関わることの喜び、保育・幼児教育の重要性を学び、問題を様々

な角度から発見し、解決する能力を養うことを目的としている。これらのプログラムによってより高いレベルでの教養と専門性を身につけ、自己肯定感を高め、様々な問題、課題に対しても積極的に関わりうる資質を持った人材を育成していくことを最終目標として掲げている。

3. 調査方法

3.1. 調査概要および参加者

本調査は、2020年11月に Google Forms を用いて実施した。参加者は国際教養こども学科に在籍する「海外保育ライセンスプログラム」にてオーストラリアへの渡航に臨む学年であり、「Study Abroad Preparation」を受講する予定の2年生44名である。なお、本学は女子大であるため、本調査に参加した学生は全て女子である。

(1) 学生の海外渡航経験

以下は学生のこれまでの海外渡航先（図1）、海外渡航回数（図2）、海外渡航目的（図3）を含む海外渡航経験について整理したものである。

前述の通り、本学科は保育を柱とした短期と長期の留学が必修のカリキュラムであることから、参加者は1年次にニュージーランドでの約2週間の「海外保育フィールド・スタディ」を終えている。そのため、全員がニュージーランドに渡航しており、「海外保育ライセンスプログラム」にて初めて海外渡航をするという学生はいない（図1）。なお、渡航先のその他（16%）には、カナダ、シンガポール、フィリピン、フランス、香港、イギリス、タイ、マレーシア、インドネシア、ネパール、スイス、スペイン、フィンランド、マルタが含まれている。

また、図2によると海外渡航回数は1回が最も多く、1年次に参加したニュージーランドでの「海外保育フィールド・スタディ」が初めての海外渡航であった学生が約半数を占めている。その他の学生は、大学入学以前に何らかの形で海外渡航を経験しており、多い学生は海外渡航回数が10回を上回っている。

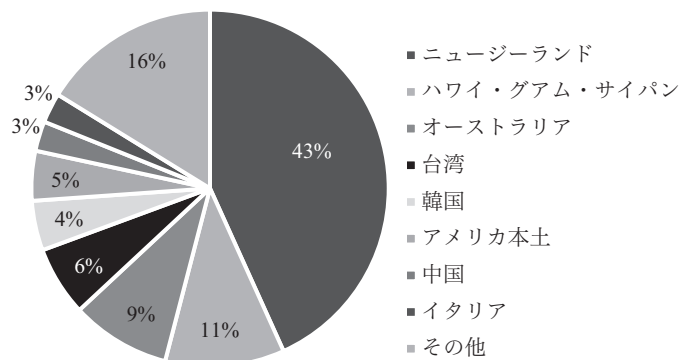


図1 これまでの海外渡航先

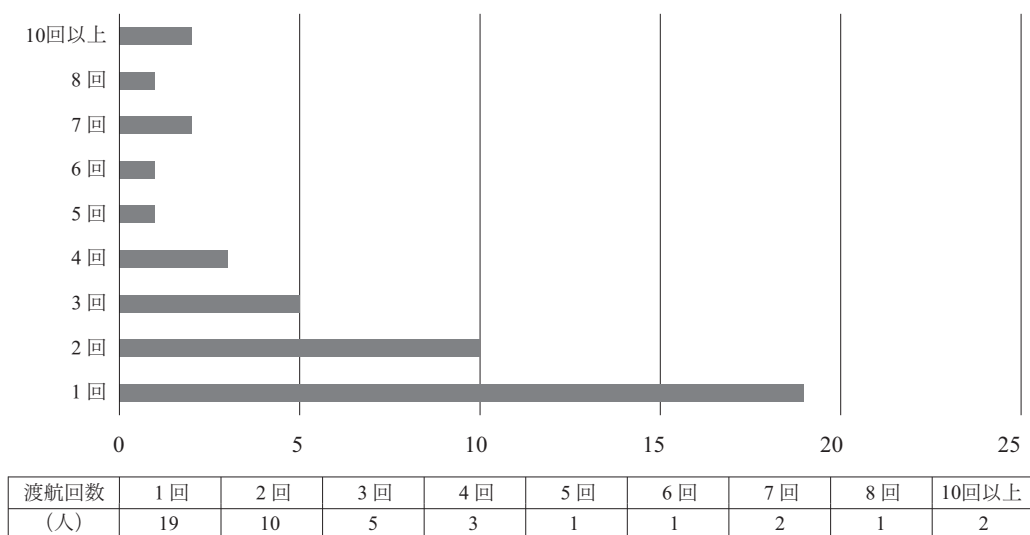


図2 これまでの海外渡航回数

図3が示す通り、これまでの海外渡航目的は、上記の海外渡航回数と同様1年次の渡航目的である「語学研修、その他研修、ホームステイなど」が最も多く、「観光、旅行、親戚・友人訪問など」が続く。海外渡航期間は、1年次の海外渡航の経験から2週間が最も多く、大学入学前までに短期語学研修等を経験した学生が3週間～7週間と回答していた。また、「家族と一緒に生活」と回答した3名は、保護者の海外駐在、もしくは保護者が外国籍という理由による滞在であった。なお、海外渡航期間の最長は3年であった。

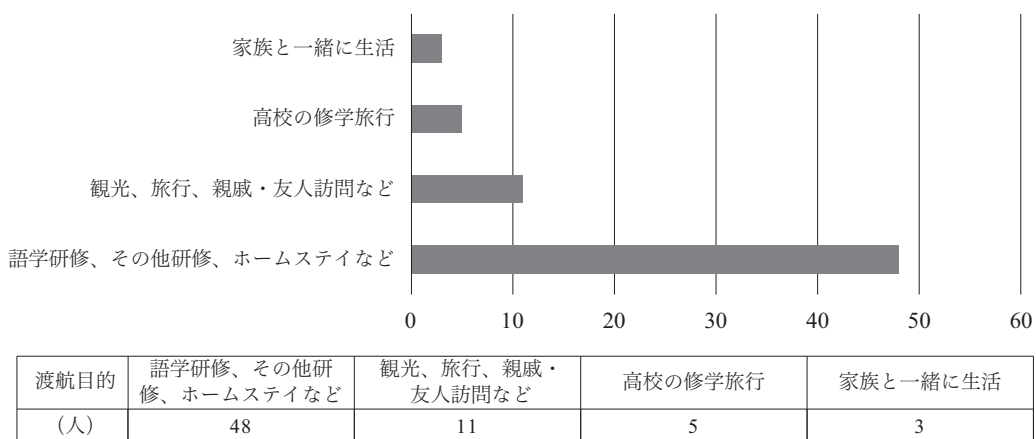


図3 これまでの海外渡航目的

(2) 学生の英語力

次に学生の現在の英語力についてみていく。本学科では必修の長期留学として位置づけている「海外保育ライセンスプログラム」に参加するまでに、英検2級以上、TOEIC 550以上の取得を目標として掲げている。以下は現時点における英検の取得級およびTOEICスコアについて

てまとめたものである（表1）。調査実施時点において英検に関しては、約70%の学生が準2級以上の級を取得しており、TOEICスコアに関しては、平均点が445.5点であった。なお、本学科が掲げている英検およびTOEICスコアの目標を達成している学生は、英検2級16名、TOEIC 550点以上10名であった。

表1 英検取得級およびTOEICスコア

国際教養こども学科2年(n=44)			
英検	2級	16	36.4%
	準2級	16	36.4%
	3級	3	6.8%
	なし	9	20.4%
TOEIC	700～	2	4.5%
	600～	1	2.3%
	500～	10	22.7%
	400～	16	36.4%
	300～	11	25.0%
	200～	4	9.1%

3.2. 調査項目

本調査では、黒宮他（2016）において実施された留学に対する「不安」と「期待」に関する質問紙調査の調査項目を用い、参加者には同項目に回答をしてもらった。ただし、一部の項目については本学の留学プログラムの内容に沿う形式の質問として修正を加え、留学に対する「期待」、「不安」および準備科目である「Study Abroad Preparation」に求めることについて自由記述形式の質問を設定した。なお、前節でまとめた基本項目についても同様の項目で回答を得ている。以下は、黒宮他（2016）で示されている留学に対する不安および期待を測定するための「留学期待」尺度（表2）と「留学不安」尺度（表3）の項目をまとめたものである⁽⁶⁾。

「留学期待」尺度は英語力の向上をはじめ12項目、「留学不安」尺度は英語力をはじめ8項目から成る。上述の通り、これら20項目は黒宮他（2016）において海外留学に臨む大学生の実態と課題について調査する際に使用された調査項目を基本とし、本学科のプログラムに沿う質問項目に修正したものである。本調査における独自項目は、「留学期待」尺度における「⑤現地での保育者スキルが向上する」、「⑥海外の資格が取得できる」の2項目であり、これらはいずれも本学科における留学プログラムの特徴に沿った質問項目となっている。また、自由記述形式の質問項目は、「海外保育ライセンスプログラムに期待すること」、「海外保育ライセンスプログラムにおいて不安に思うこと」、「準備科目 Study Abroad Preparation に求めること」の3項目である。

表2 留学に対する「期待」尺度の項目一覧

	非 常 に 期 待 し て い る	期 待 し て い る	期 待 し て い な い	全 く 期 待 し て い な い
① 英語力が向上する	4	3	2	1
② コミュニケーション能力が向上する	4	3	2	1
③ 視野が広がる	4	3	2	1
④ 専門的な知識が身につく	4	3	2	1
⑤ 現地での実習により保育者スキルが向上する	4	3	2	1
⑥ 海外の資格が取得できる	4	3	2	1
⑦ 将来の選択肢が広がる	4	3	2	1
⑧ 現地の文化を体感できる	4	3	2	1
⑨ 新しい友人、人間関係ができる	4	3	2	1
⑩ 適応・対処能力が高まる	4	3	2	1
⑪ 忍耐力がつく	4	3	2	1
⑫ 自分自身を見直すことができる	4	3	2	1

表3 留学に対する「不安」尺度の項目一覧

	全 く 不 安 で な い	あ ま り 不 安 で な い	不 安 で あ る	非 常 に 不 安 で あ る
① 英語力に関して	4	3	2	1
② 費用に関して	4	3	2	1
③ 現地での生活に関して	4	3	2	1
④ 留学先の教育レベルと自己の習熟レベルのギャップに関して	4	3	2	1
⑤ 留学先での人間関係に関して	4	3	2	1
⑥ 帰国後の学習、単位取得に関して	4	3	2	1
⑦ 手続きの煩雑さに関して	4	3	2	1
⑧ 留学先の生活情報に関して	4	3	2	1

3.3. 分析方法

Google Forms を使用しての回答結果について、大学生が持つ留学に対する期待および不安に関して4件法（留学に対する期待は「非常に期待している」＝4、「期待している」＝3、「期待していない」＝2、「全く期待していない」＝1、留学に対する不安は「全く不安でない」＝4、「あまり不安でない」＝3、「不安である」＝2、「非常に不安である」＝1）で回答を得た。回答結果を数値化し全体の傾向を提示した上で、自由記述項目において得られた回答を質ごとに分類するためにKJ法を用いてカテゴリー化を試みた。なお記述内容は主観的な分類とならないよう本稿の筆者3名で行った。

3.4. 倫理的配慮

本調査参加者には、研究目的、方法、参加は自由意志であること、また匿名であり個人が特定されないことおよび成績評価には一切影響しないことを Google Forms の冒頭部分と口頭で説明を行い、学生の同意を得た上で実施した。

4. 結果と考察

本調査では、留学に対する期待12項目と不安8項目について4件法で回答を求めた後、自由記述形式による質問への回答も得た。以下、その結果について述べていく。

4.1. 留学に対する「期待」について

(1) 自らの能力・技能に関する項目

期待の項目「①英語力が向上する」、「②コミュニケーション能力が向上する」、「③視野が広がる」の自らの能力・技能の向上に関する3項目は、ほとんど全員が「非常に期待している」もしくは「期待している」を選択しており消極的な回答を選択した学生はいなかった。そのため、この留学で自らの英語力やコミュニケーション能力等の向上に多くの期待を寄せていることがわかる。

(2) 専門的知識・資格取得・文化体験等に関する項目

次の期待項目である「④専門的な知識が身につく」、「⑤現地での実習により保育者スキルが向上する」、「⑥海外の資格が取得できる」、「⑦将来の選択肢が広がる」、「⑧現地の文化を体験できる」の専門的知識・資格取得・文化体験等に関する5項目についても前項目と同様に90%前後の学生が期待を示す回答をしていた。カリキュラムに含まれる留学プログラムということで、海外の保育・幼児教育に関する専門知識の習得や資格取得に関しては保証されている部分が多いという印象からか、それらに対する期待もかなり高いということが窺える。

(3) 対人関係・精神的側面に関する項目

留学に対する期待の項目「⑨新しい友人、人間関係ができる」、「⑩適応・対処能力が高まる」、「⑪忍耐力がつく」、「⑫自分自身を見直すことができる」の対人関係・精神的側面に関する4項目についてもその他の項目同様、90%前後の学生が期待を表すという結果であった。「⑨新しい友人、人間関係ができる」と「⑪忍耐力がつく」においては10%程度の学生が「期待していない」、「全く期待していない」を選択していたが、いずれにしてもこれらの項目でも高い期待をしているということがわかる。

4.2. 留学に対する「不安」について

(1) 自らの能力・技能・現地での生活に関する項目

まず、不安の項目「①英語力に関して」、「②費用に関して」、「③現地での生活に関して」、「④留学先の教育レベルと自己の習熟レベルのギャップに関して」の自らの能力・技能と現地での生活に関する4項目についてである。「①英語力に関して」、「④留学先の教育レベルと自己の習熟レベルのギャップに関して」は、90%以上の学生が「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答している。このことから、現時点の自らの英語力が現地での生活や学習において通用するかどうかという不安を抱えていることがわかる。また、現地の学校の学習内容や教育レベルについては、提携校での学習の経験がないことから漠然とした不安につながっているものと思われる。その他の「②費用に関して」、「③現地での生活に関して」についてはどちらの項目においても85%の学生が「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答している。図4は「②費用に関して」の回答の結果をまとめたものであるが、「③現地での生活に関して」もほぼ同様の結果であった。上記で触れた2項目と同様に現地での生活の経験がないことから、費用、生活全般に関する不安はかなり大きいことがわかる。

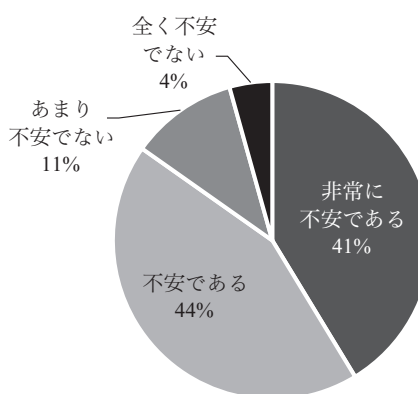


図4 費用に関して

(2) 対人関係・帰国後の学習・留学準備に関する項目

次に、「⑤留学先での人間関係に関して」、「⑥帰国後の学習、単位取得に関して」、「⑦手続きの煩雑さに関して」、「⑧留学先の生活情報に関して」の対人関係、帰国後の学習・留学準備に関する4項目についてである。「⑤留学先での人間関係に関して」は、60%以上の学生が「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答している（図5）。現地ではホームステイへの参加もプログラム内に組み込まれており、馴染みのない人と生活をする必要があることから人間関係の構築に不安を感じている学生が多いと思われる。

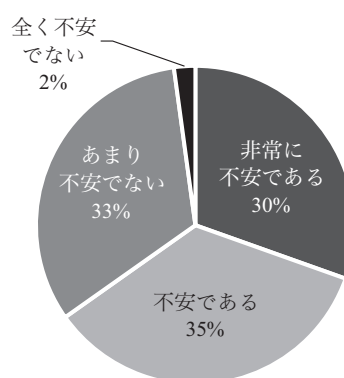


図5 留学先での人間関係に関して

「⑥帰国後の学習、単位取得に関して」も60%を超える学生が「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答する結果となった（図6）。本学科では約11カ月の留学が必修となっ

ていることから、本学（日本国内）での学習期間は概ね3年間である。そのため、その3年間の中で卒業に必要な単位および幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得に必要な単位を履修していく必要がある。このように履修計画が過密であることから最終的に必要な卒業単位および免許・資格単位を揃えることに対する不安を抱いている可能性があると考えられる。

続いて「⑦手続きの煩雑さに関して」は70%以上の学生は「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答している（図7）。オーストラリアで保育・幼児教育を学ぶ留学生は学生ビザ取得の際に通常では求められない健康診断が求められたり、留学前には様々な手続きを行う必要があることから、事前手続きに関する不安についても多くの学生が感じているということがわかる。

留学に対する不安の最後の項目「⑧留学先の生活情報に関して」は、約90%の学生が「不安である」もしくは「非常に不安である」と回答する結果となった（図8）。事前準備科目等を通して現地の様子や生活に関する情報はできるだけ収集し事前学習を念入りに行っていく予定となっているが、学生にとっては実際に生活を始めてみないと見当がつかないことも多くあることから不安につながっていると思われる。

4.3. 留学に対する「期待」・「不安」要因のカテゴリー化

(1) 「期待」要因のカテゴリー化

本調査では、学生の留学に対する率直な意見を集約するため、自由記述による質問項目を設けている。まずは、留学に対する「期待」がどのようなものであるかを探る「あなたが海外保育ライセンスプログラムに期待することを述べてください」という質問項目に対する回答をま

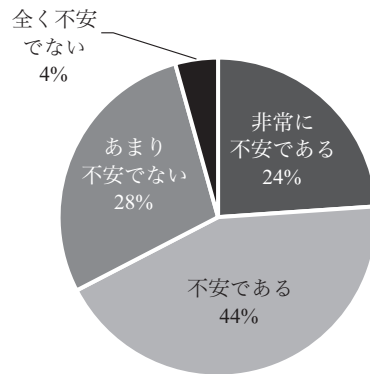


図6 帰国後の学習、単位取得に関して

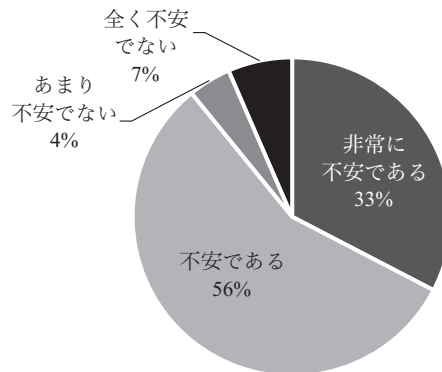


図7 手続きの煩雑さに関して

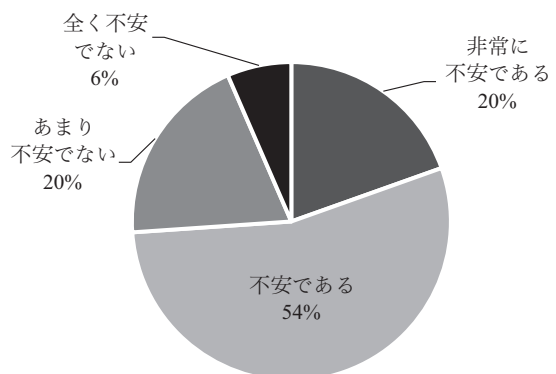


図8 留学先の生活情報に関して

とめた (図9)。

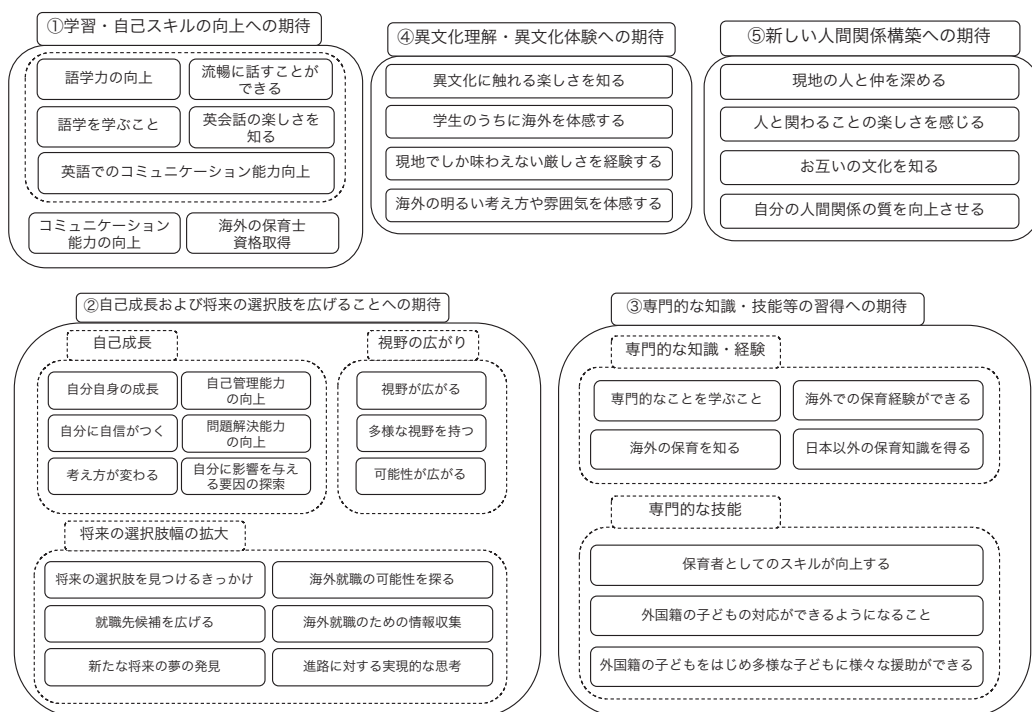


図9 期待要因のカテゴリー化の結果

この質問項目の中で最も回答が多かったのは「①学習・自己スキルの向上への期待」の中の「語学力(英語力)が向上すること」に関連する意見であった。前節でまとめた留学に対する「不安」のアンケート結果では、英語力に関しては90%以上の学生が不安に感じていると回答しており、学生は現時点での自分自身の英語力に満足していないことがわかったが、上記の結果から留学で自らの英語力向上に大きな期待を寄せているということが明らかになった。次に多かった記述は、「②自己成長および将来の選択肢を広げることへの期待」の中の「視野の広がり」や「将来の選択肢幅の拡大」に関するものであった。本学科における留学プログラムは、語学学習を主とした留学ではなく、留学先において専門的な学びをすること、現地の資格を取得することが内容に含まれている。このことから、留学の経験それ自体が自分の視野を広げることにつながったり、進路就職の選択肢が増える可能性があると考えていると思われる。この結果に関連する3番目に多かった意見のカテゴリー「③専門的な知識・技能等の習得への期待」である。海外で専門的な分野について学ぶことにより、専門的な知識、技能が身につく、保育者としてのスキルが向上するという期待を抱いていると思われる。

(2) 「不安」要因のカテゴリー化

次に、留学に対する「不安」がどのようなものであるかを探る「あなたが海外保育ライセン

プログラムにおいて不安に思うことを述べてください」という質問項目に対する回答を期待要因と同様にまとめた（図10）。

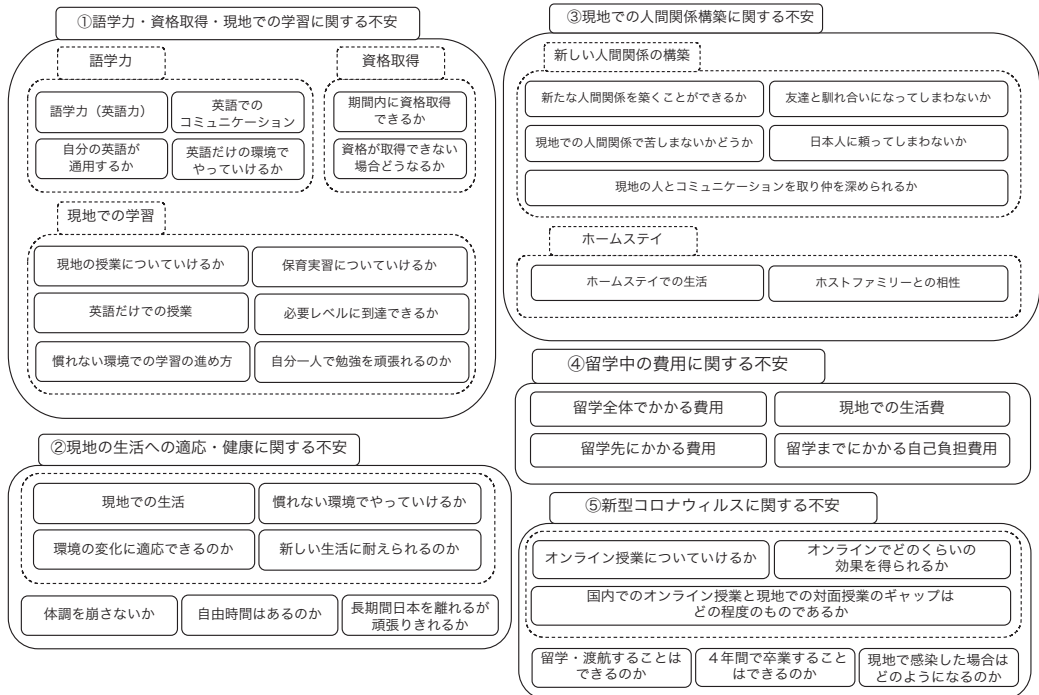


図10 不安要因のカテゴリー化の結果

「期待」要因のカテゴリーで最も多く挙げた意見は「語学力（英語力）の向上」であったが、「不安」要因のカテゴリーにおいても最も回答が多かったのは「語学力（英語力）」、「英語でのコミュニケーション」等、「①語学力・資格取得・現地での学習に関する不安」のカテゴリーであり、英語のみを使用する環境において自分の英語力が通用するか、適切なコミュニケーションを図っていけるかという不安を表す内容であった。また、それと同時に「現地の授業についていけるか」、「保育実習についていけるか」等、留学先での学習について不安に思っている意見が多数挙げられていた。海外で専門的な授業を受けるということはほとんど全ての学生が初めての経験であることから、不安に感じていると回答した学生が多かったと推測できる。

今回の調査で抽出できた独自のカテゴリーは、「⑤新型コロナウイルスに関する不安」のカテゴリーである。現時点では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により本来の渡航スケジュールを延期をせざるを得ない状況となっている。このことから、語学コースをオンラインでの受講をスタートさせること等を選択肢の一つとして提示したため、当初の予定通りの学習計画で進められない可能性があることから、それに対する漠然とした不安が現れることになったと思われる。

5. まとめ

5.1. 留学への「期待」要素と「不安」要素を反映させたシラバスの提案

本節では、上記の調査結果をもとに学生が留学に対して抱いている「期待」に沿い、また「不安」を解消するためのシラバスの提案を試みることにする。不安の要因を取り省き、期待する要因を強化することで、学生の留学の準備科目として理想的で効果的な事前科目となると考える。

表4 「Study Abroad Program」シラバス案

回数	学習内容
1	海外保育ライセンスプログラムの概要説明
2	旅行取扱業者による説明(願書・ホームステイ・ビザ申請・健康診断について)
3	英語学習アドバイス(専門用語の紹介・基礎英語力強化について)
4	先輩の留学体験と質疑応答(語学コースを中心に)
5	英語学習計画の作成
6	先輩の留学体験と質疑応答(保育コースを中心に)
7	オーストラリアにおける教育・保育①:教育・保育制度
8	オーストラリアにおける教育・保育②: EYLF
9	オーストラリアにおける教育・保育③: グループワーク
10	旅行取扱業者による最終確認
11	安全指導①: ケーススタディ
12	安全指導②: グループディスカッション
13	安全指導③: 本学の危機管理リスクマネジメントとその対応について
14	保育コース学習計画の作成①(座学部分を中心に)
15	保育コース実習計画の作成②(実習部分を中心に)

上記シラバスでは、まず学生の不安要因として多く挙げられていた英語力についての「学習アドバイス」を比較的早い段階で授業内容の中に取り入れている。本学科では、共通教育科目とし「総合英語Ⅰ～Ⅳ」に加え、英語ネイティブ教員による「Basic Communication in English I・II」「Intermediate Communication in English I・II」が配置されている。さらに2年次後期には、オンライン英会話学習を含む e-learning システムを取り入れ、自律的な学びの育成と留学への準備を万全にしている。このシラバスでは、留学に必要な英語の学習について理解するとともに、専門用語の学習など学生の不安要因を排除するものとした。また、不安要因のリスクマネジメント・健康面などについては、渡航イメージがある程度出来上がるとと思われる授業の最後の段階に設定した。その単元は「安全指導」とし、ケーススタディを具体例に挙げ、グループディスカッションを行い、学生自身の危機管理能力の向上を図ると同時に、本学における危機管理の全体像を理解させ、学生の不安を安心に変えるように配慮した。さらに、留学を経験した先輩との交流と質疑応答を行うことで、同年代の学生が不安となる項目についても共有でき

るよう工夫している。加えて、現地での学習に対する不安解消につなげるために、語学コース・保育コースともに学習計画の作成に取り組みさせる時間を確保した。実際の学習内容を想定しながら計画を作成することにより、現地での学びの見通しを持つことができ、漠然とした不安を払拭するきっかけ作りを提供することができると思う。

5.2. 今後の展望と課題

本稿では、オーストラリアでの長期留学「海外保育ライセンスプログラム」を控えた学生の留学に対する期待12項目と不安8項目について4件法で回答を求めた後、自由記述形式による質問への回答を得た。その結果から、主要な要因を整理し、事前科目である「Study Abroad Preparation」の授業内容をシラバスとして提案した。

シラバスの提案の中には、特に意見が多く挙がった英語力の不安を解消するために英語学習計画作成の時間を確保するという提案をし、効果的な英語学習につなげられるような契機を設定することとした。また、安全面・健康面での不安要素から、安全指導の内容を細分化し、授業内容に取り入れた。加えて、留学を経験した学生との交流を行う内容を盛り込み、個別の不安にも対応できる内容を取り入れた。先輩との実質的な交流は、今後の縦の繋がり構築にも発展させられる可能性も含んでおり、内容に関してより組織的にデザインする必要があると考える。しかしながら、期待要素や不安要素といった個別の内的要因を数値化するのは、難しい点も存在する。また、日々変化する世界情勢の中で、そのような要素も多様化することが予想される。今後も継続的な調査を行い、分析することで、より精度の高いシラバスが構築できると思われる。

今後、渡航スケジュールが確定した後は、このシラバスに沿った授業実践を行い、その達成を調査・分析し、検証を行う予定である。

注

- (1) 文部科学省 (2008) 「5. 日本人の海外留学」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo4/houkoku/attach/12497709.htm
- (2) 文部科学省 HP 「トビタテ！留学 JAPAN」 <https://tobitate.mext.go.jp>
- (3) 鈴木克義 (2015) 「急速なグローバル化と国際保育者養成のニーズ～外国人保育士への日本語教育と、英語保育者の養成を急ごう～」『常葉大学短期大学紀要』46号 p. 103
- (4) 奥山和子 (2017) 「留学経験がもたらす効果としての自己効力感の形成プロセス—質的研究手法を使って—」『大学教育研究』第25号 神戸大学 大学教育推進機構 pp. 84-85
- (5) 黒宮亜希子他 (2016) 「海外留学に臨む大学生の実態と課題について—学生を対象とした調査を基に—」『吉備国際大学研究紀要 (人文・社会科学系)』第26号
- (6) 同上 p. 123. なお、本学科の留学プログラム内容に沿った質問項目となるよう筆者が修正を加えている。

参考文献

- 奥山和子 (2017) 「留学経験がもたらす効用としての自己効力感の形成プロセス—質的研究手法を使って—」『大学教育研究』第25号 神戸大学 大学教育推進機構
- 黒宮亜希子他 (2016) 「海外留学に臨む大学生の実態と課題について—学生を対象とした調査を基に—」『吉備国際大学研究紀要 (人文・社会科学系)』第26号
- 鈴木克義 (2015) 「急速なグローバル化と国際保育者養成のニーズ～外国人保育士への日本語教育と、英語保育者の養成を急ごう～」『常葉大学短期大学紀要』46号
- 文部科学省 (2008) 「5. 日本人の海外留学」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo4/houkoku/attach/12497709.htm (情報取得日2020/11/14)
- 文部科学省 HP 「トビタテ！留学 JAPAN」<https://tobitate.mext.go.jp> (情報取得日2021/01/06)

(受理日 2021年1月7日)